科目名(単位数)	対象年次	履修	期別	開講時間	必要面接時数	レポート通数	
数学B(2)	原則3・4年次	選択	通年	6	2	6	
科目の概要	前期は「数列」、後期は「ベクトル」について学びます。						
科目の目標	数列・ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を養う。						
	学 習 内 容	到 達 目 標			スクー リング が回	レポ ート 回	試験 範囲
年間 学習 計画 ・ 学習 の ね ら い	数列と一般項 等差数列	・数列について理解する。 ・等差数列について理解し、その一般項・和を求めることができる。			1	1	前 期
	等比数列	・等比数列について理解し、その一般項・和を求めることができる。			2	2	
	いろいろな数列の和 階差数列 漸化式 数学的帰納法	・シグマの記号の意味を理解し、計算できる。 ・いろいろな数列の一般項・和を求めることができる。 ・漸化式を理解する。 ・漸化式で定められた数列の一般項を求めることができる。 ・数学的帰納法を理解する。 ・証明問題に数学的帰納法を活用できる。			3	3	
	有向線分とベクトル ベクトルの計算 ベクトルの成分表示	・ベクトルの意味を理解する。 ・ベクトルの和・差・実数倍の演算について理解し、作図ができる。 ・ベクトルの分解について理解する。 ・ベクトルの成分について理解し、計算ができる。			4	4	後 期
	ベクトルの内積 ベクトルのなす角 位置ベクトル ベクトルと図形	・ベクトルの内積・なす角について理解し計算ができる。 ・内積の計算法則を理解し使える。 ・位置ベクトルについて理解する。 ・分点の位置ベクトルについて理解する。 ・重心・内心の位置ベクトルを求めることができる。 ・ベクトルの平行について理解する。			5	5	
	空間のベクトル 空間の座標とベクトル 空間のベクトルの内積 空間のベクトルと図形	・空間座標について理解する。 ・空間ベクトルについて理解する。 ・空間ベクトルを成分で表し、演算、内積・なす角などの計算ができる。 ・空間における位置ベクトルを理解し、空間図形にベクトルを活用できる。			6	6	
評価 方法	試験の得点 80%、レポート・スクーリングの取組状況 20%とし、総合的に評価する。 ①レポート : 提出の計画性及び内容 (途中式や考え方の丁寧な記載など) ②スクーリング : 学習意欲・学習に対する姿勢 ③試験の得点 : 追再試験の得点は定期試験の得点と同等には扱わない。						
単位 の 修得	①レポート … 締切までに所定のレポートを提出し、合格すること。 ②スクーリング…年間2時間以上出席すること。 ③試験 … 前期試験・後期試験の両方に合格すること。						
使用教科書等	・教科書:「新数学B」(東京書籍) ・学習書:「ニューファースト 新数学B」(東京書籍)						
学習上の 留意点	・教科書・学習書の例題を理解できるまでよく読んで、その解答・解説を十分参考にしましょう。 ・スクーリングでは、教科書のすべての範囲を扱うことはできません。教科書・学習書を自学自習し、前もってレポートに取り組んで参加するようにしましょう。						
放 送 視 聴 に つ い て	・テレビ・ラジオの放送はありません。 放送視聴による面接指導の代替はありませんので、必ず2時間以上スクーリングに出席してください。						